

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600499		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム五島	ユニット名	
所在地	長崎県五島市大荒町1210		
自己評価作成日	平成25年9月1日	評価結果市町村受理日	平成25年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F		
訪問調査日	平成25年10月16日	評価確定日	平成25年12月9日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人内GHの理念は「家庭的な雰囲気の中でその人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します。」で取り組んでいます。これは、本人・ご家族の希望を取り入れながら利用者のペースを維持しながら支援していくことを基本にケアを行っています。職員側の決まりや都合を優先しがちな介護業務から利用者の自立を支援するために「どうすればよいか」日々考え行動することを目標にしています。そのため毎月職員の研修会を開催し知識や技術の向上に取り組み、研究発表会の開催など先進的な活動を行っています。介護の知識や技術の進歩が質の高いサービスにつながり、職員の「おもてなしの心」でケアすることに力を入れています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム五島では、管理者を中心にチームワークが良く、ご利用者の生活に笑顔が増える企画を考えている。生活歴や仕事を把握し、ウニや山菜が採れる時期にご利用者の故郷に出かけ、馴染みの人との会話を楽しめるようにされている。「チョコをお盆に施設で見たいので、依頼して欲しい」との要望があり、チョコの事務局と連絡を取り、ホームの庭でチョコの踊りを披露して頂く事もでき、ねぶた祭りでは市長が握手をして下さった。出初式にも参加し、放水時にご主人(元消防団)を思い出され、生き生きとした表情をされていた方もおられる。ご利用者が長年培って来られた“馴染みの生活”を共に作られており、ご利用者への愛情も更に湧き、日々の生活の中で涙も笑いも感動も頂きながらの生活が続いている。干し柿作りやらつきょう作りも楽しまれ、稲作作りでは美味しいお米を全員で食べる事ができた。今後も、更なる笑顔を引き出す取り組みを続けていく予定である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『家庭的な雰囲気の中で、その人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します』法人内GH共通の介護理念を掲げ、理念の実現に向け日々努力している。	馴染みの職員でケアされており、ご利用者との信頼関係もできている。“その人らしく尊厳のある生活を目指し”、ご本人のできる所はして頂き、待つケアに努めている。25年度は稲作りも行われ、外出支援も積極的に行い、ご利用者それぞれの気持ちや意見を取り入れながら日々のケアを行ってこられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や会合へはできる限り参加している。また、他の地区の行事(運動会)にも足を伸ばして交流をはかっている。	近所の方から花の苗等を頂いたり、お醤油を借りる関係もできている。幼徳保育園の園児がホームのミニレク大会に参加して下さったり、富江バハロア会との交流もあり、ご利用者の楽しみになっている。福江みなと祭りや市民大清掃、出初め式などへの参加も継続しており、ホームの庭でチョコ念仏踊りも披露して下さっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所ごと、法人全体での研修会や勉強会等には積極的に参加できている。実際のケアの現場に活かせるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、事業実績と事業計画の報告を行っている。サービスの提供内容から評価までの取り組み状況についても報告し、推進委員から意見・質問をいただきながら今後の参考にしている。	24年度からホーム単独で開催している。参加者の方が関心のある内容(感染症等)も議題に盛り込み、研究発表会の内容もお伝えしている。会議の最後には楽々体操やミニレクも行い、参加者と一緒に楽しむ機会が作られている。今後も多くの家族の方に参加頂けるように、家族会でも声かけを続けていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には参加をいただいている。推進会議と行事を併せることで、ミニレク大会や敬老会にも参加協力いただいている。	運営推進会議の後の行事(ミニレクや敬老会)にも残って下さり、ホームの取り組みも理解して下さっている。認定の申請などは母体施設の職員が行っているが、ホーム職員も、提出資料に関する疑問などを市に相談しており、親身に対応して下さっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で「身体拘束は行わない」という方針で取り組んでおり、勉強会や研修会において「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についても正しく理解し取り組んでいる。	法人での研修(年1回)とホームでの研修(頻回)を行っている。身体拘束を行わない指針及びマニュアルもあり、研修を通して職員の意識づけが行われ、家族にもホームの方針とリスクについて説明している。「家が気になる」方は外出を増やし、大好きなカラオケを楽しむ機会を作ると共に、家族にも相談し、協力して頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、身体拘束と同様に勉強会や研修会において学び、お互いに虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については研修会を行い、それらを活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、懇切・丁寧に対応している。出来る限り専門用語等を使わないようにするなど、十分な説明により理解と納得をいただけるよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会はもちろんのこと、日常の面会時においても、家族が意見・相談できるような環境及び体制づくりに心がけている	3月に1回、担当職員が家族に手紙を書き、日頃の状況を報告している。面会時などに、退居の心配が家族から聞かれた時は、安心できるような説明をしており、家族会(年1回)で家族同士の交流も行われている。「米作りがしたい」と言う要望があり、個人毎に自分の畑(衣装ケースを活用)を作り、収穫まで行う事ができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、現場の職員の声をしっかりと受け止められている。必要に応じ、代表者へ伝えるようにしている。報告・連絡・相談をきちんと行えるように努めている。	勤務年数が長い職員も多く、意見やアイデアは豊富で、季節の飾りや行事企画等も活発に意見が出されている。3か月に1度、各事業所の副主任による会議があり、年に3回の主任者会議、ケア会議も継続し、職員の意見を反映させる仕組みが作られている。職員同士の助け合いも抜群で、チームワークも良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、利用者第一と職員の健康管理に心配りをされている。職員の勤務状況も確認し、キャリアパス制度においても個別対話を導入して職員の意見・相談なども行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際や力量の把握に努めている。また、法人内外での研修の機会や確保にも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業に関連した研修会に参加し交流する機会を作っていたりしている。また、サービスの質の向上にも積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を知り理解することからはじめ、職員も理解してもらえよう努める。自ずと必要なこと、要望、不安が見えてくる。それが支援につながっていく。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活の様子・状態を細かく報告したり、家族からの意見・要望等を聞き入れる。まず、家族が職員に話しやすいような関係作り、信頼関係を築くよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者は「ここはどこ？」と不安でいっぱいである。ここは安全で安心できる場所であると心と体で伝える。具体的な支援は、本人・家族と話して状態を観察しながら必要なところから始める。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日過ごしている愛情が湧いてくる。日々の生活の中で、涙も笑いも感動もいただいている。利用者が介護されているという気持ちにならないような言葉かけ努めている。人生の先輩であることを常に忘れないようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り家族と話し合いながら共に支援できるよう対応している。毎月のホームだより、家族への手紙で近況報告し、緊急の場合は電話で報告している。必要に応じて指示を仰ぐこともある。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は、家族との関わりが多く、家族にも協力をいただいている。ドライブコースは、それぞれの故郷を重んじ決めている。友人知人が面会に来ることもあり、写真を撮り、本人にプレゼントすると、とても喜ぶ。	生活歴や昔携わった仕事などを把握している。ウニや山菜が採れる時期に、ご利用者の故郷に出かける事で、故郷の馴染みの人との会話を楽しむ取り組みも行われた。ご本人が親戚の事を心配されていたので、家族から親戚に連絡を取って頂き、面会に来て頂く機会も作られた。島への里帰りの検討も続けている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても受け入れることの出来ない利用者同士がいるが、その他の利用者は、お互いを尊重し、生活している。利用者同士がぶつかり合いそうになった場合は、そっと間に入り、お互いを刺激しないような対応に努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所のほとんどが病院への入院である。関係を断ち切らない支援としては、見舞いを継続している。病院を退院するときのフォローも兼ねて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活をする上ではしばりをしないように工夫している。その日の体調にもよるが、出来る限り本人本位を優先した生活を送れるよう支援している。	お風呂の時や居室での会話、受診時を含めて、ご利用者の思いを把握するように努めている。「今のままで十分」と言う方もおられるが、お気持ちを察して外出等にお誘いしたり、願いを叶えるように努めている。五島の昔の写真集と一緒に見たり、歴史資料館に行く機会も作り、五島の暮らしを年表にしていく取り組みも行われた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時及び申込み時にサマリーや本人・家族からの聞き取りで情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の過ごし方には、多少変化はあるものの、だいたい同じパターンである。バイタル、表情、顔色、食欲、身体能力には気を配りながら怠らない。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスとモニタリングを行い、介護計画を作成している。日常の行動を常に観察しながらケアにあたることで、現状に即した計画書を作成出来るようにしている。	ご本人や家族の要望を伺うと共に、母体施設のPT・OTにも意見を聞きながら、計画を作成している。日々の生活の中で、洗濯物たたみや食事の用意、編み物などの役割や趣味も盛り込み、「自宅に帰りたい」と言う願いも反映し、歩行訓練も行われている。評価は職員全員で行っており、表現にも気をつけて計画を作成している。	ご利用者の中に、農業と漁業を長年されてきた方もおられる。今後の生活の中で、農業や漁業に関わる活動ができる支援を更に続けていく予定にしている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫については、個別記録に記入し、カンファレンスやモニタリングにおいて情報の共有を行い、実践や介護計画書の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて様々なサービスを提供している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	五島という自然あふれる資源を活用している。地域の行事や食材などで楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決定は、本人・家族によるものであり、定期受診は本人の体調を含め必要に応じて受診している。	定期受診にはケアマネが同行している。受診結果は家族と共有し、急を要する場合は、医師からの説明を一緒に聞いて頂く事もある。医師との連携も密に行われ、受診同行時も他のご利用者の体調を気遣う声かけをして下さっている。職員の観察力も高くなっており、早期発見にも努め、母体施設の看護師とも連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには看護師は常駐していないが、必要に応じて母体の老健施設からの協力は得ている。職員では判断できないような場合は指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるように、また、早期退院できるように病院関係者との信頼関係を築き、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気の進行状況を見ながら家族と対応している。	19年にホームでの看取りケアが行われた。医療面での安心もあり、「最期は病院で…」と希望される方も多く、ホームで対応できる事は精一杯させて頂いている。ご利用者からは「ここがいい」と言う言葉も聞かれ、風邪を引かないように意識して過ごされる方もおられる。終末期におけるケアの希望がある場合には、母体である老健の入所を提案し、安心・安全なケアに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	グループホームでの勉強会や法人全体での研修会において応急手当や初期対応の訓練等も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	総合訓練も年2回以上実施している。また、地震・水害などの災害に備えた訓練も実施している。訓練時は近隣住民にも参加いただいている。	消防署の方と夜間想定訓練が行われ、25年3月には、家族や地域の方も参加して下さった。日中想定で自主訓練も行われ、ご利用者も頭巾をかぶって参加されている。消防団とも災害時の協力体制があり、備蓄は母体施設で準備すると共に、ホームでもされている。スプリンクラーも設置し、夜勤時の防災チェックも続けている。	

自己	外部	外部評価		
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを意識して対応し、介護職員である前に人としての義務でもある。相手を尊重する気持ちを持って対応している。	職員もご利用者も馴染みの関係になっているが、「人生の先輩である」という考えを全てのケアに活かし、ご利用者の誇りやプライバシーを損ねないように注意している。オムツ交換時やトイレ使用時にはドアを閉め、言葉遣いについても職員同士で確認している。書類の管理を含めて、全職員が徹底できている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から導き出し、その人の思いをくみ取る。利用者が職員に遠慮のない人間関係を築くことで会話も広がる。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、ラジオ体操、レク以外は本人のペースを尊重して過ごしている。体調にもよるが、食事の時間をずらす場合もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の出張散髪を利用している。衣服はできるだけ本人に選んでいただき「おしゃれ」の意識をもっていただくように支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し代替えの食事を用意することで食の楽しさを味わっていただく。昼食は、職員も一緒に食べ「共に生活している」と実感を味わっている。	ご利用者と一緒買い出しに出かけ、食材を選んで頂いている。プランターで育てたネギやゴーヤも食材として使い、旬の料理を楽しまれている。職員が自宅で寒天等を作り、皆さんで美味しく食べられている。焼き芋等も好評で、「芋ご飯」なども食卓に登場している。自分のペースで食べられており、職員も一緒に食事を楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、主食と副食に分けて10単位で記録している。栄養のバランスを考えた献立とし、水分の摂取の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を職員が理解し、食後のうがいと歯磨きを毎日実践している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、声かけしながらトイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を大切にしている。布の下着の方も半分はおられ、オムツを使用している方はおられない。時間毎の誘導を行い、失禁を減らす取り組みが続けられている。必要に応じてパッドの大きさも変えており、家族の負担もかけないように努めている。排泄時も自立支援に配慮し、外で待機する事も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や仕組みについては、勉強会を通して理解している。食事・水分・運動をこまめに提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、曜日・時間帯は決まっているものの、本人の体調等を考慮しながら、本人の意思によって入浴の時間帯なども選んでいただいている。	18時頃まで入浴可能である。みかんの皮を浮かべたり、音楽(演歌)を流し、一緒に会話も楽しんでいる。洗髪も含めて、できる範囲は洗って頂いているが、不安が強い方は、体調確認も目的に2人介助が行われている。「温泉の風呂より、ここの方が安心」と言って下さる方も多く、全員湯船に入られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング室での生活が多いが一人の時間を過ごすときは、自室に行ったり、外に出たりと自由な対応が出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬事故が起きないように、配薬・服薬をそれぞれ職員が担当している。服薬後も状態の変化や確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味・嗜好品・楽しみごとは利用者それぞれであり、楽しく過ごしていただくために支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に添って買い物、ツワ採り、墓参り、花見、地域行事などに出かけている。ドライブは出来る限り故郷が見られるようコース設定している。	ホーム庭に毎日出ておられる方もおられる。風力発電建設のためのクレーン船の見学や大型旅客船の見学も喜ばれ、果物“いくり”採りにも出かけている。三井楽のふるさと館、富江の芝桜見物、山菜採り、岐宿魚津ヶ崎などのドライブも楽しまれ、ふるさと館でのバイクも好評である。希望に添った個別の外出も行われ、外出には家族の協力もあり、自宅やお墓参りにも一緒に行かれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理のできる人には、その人の能力に応じて所持している。その中でも買い物に出かけたり、職員に買い物を依頼したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から家族へ年賀状を出したり、必要に応じて電話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング室の前にはゴーヤ・ヘチマを栽培し、居室にすだれを飾り、玄関や廊下には季節を感じることでできる壁面飾りをしている。	四季折々の花や木々を飾り、季節感を感じて頂いている。風が強い場所でもあり、ご利用者のアイデアでリビングの中によしずを下げ、日差しの調整をしている。主任が書道で書かれた歌が廊下に貼られ、昔使われていた道具も廊下に取り、日々話題の一つとなっている。カラオケ機器が導入され、ご利用者も楽しんでいる。24年度は外で稲作りも行われた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前にはベンチを置き、花や景色を堪能できるようにしている。一人でのくつろぎの場所であったり、利用者同士の語らいの場にもなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から持ってきた植木鉢や故郷の店の名前入りのカレンダーを飾ったり、五島の名物のバラモン凧を飾っている。	職員手作りの収納箱は長年愛用されており、パッドの収納にも重宝している。持ち込みが少ない方には、飾り物や植木で緑を多くする等の工夫をしており、テレビ、お位牌、洋服、帽子、馴染みの釣り道具を持ち込まれている。孫が描いた漫画本を持って来られている方や、編み物等をされている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は居室入口に名前を掲示したり、居室内ではダンスなどに何が入っているか分かりやすいように名前を付けて、できる限り自立した生活が送れるよう支援している。		